

3. 幼小連携の取り組み・在り方についての自由記述

幼4：小学校における教育との連携に関して、期待することや質問、感想など、ご自由にお書きください。

小4：幼児期の教育との連携に関して、期待することや質問、感想など、ご自由にお書きください。

幼保等教職員・小学校教職員ともに連携の必要性や連携のあり方について、様々な意見や思いをもっており、子どもについての情報交換や交流を通して連携していくことを有意義だと考えていることが分かる。特に、幼保等教職員は、「相互理解」という表現を用いて記述していることが多く、幼保への理解を望むだけでなく小学校について理解を深め教育（保育）に役立てたいという思いが見られた。一方、小学校教職員は「相互理解」と表現する職員は少なかった。小学校は幼保に小学校の教育を理解してほしいという意識ではなく、幼保の様子を知り、小学校の教育に活かしたいという思考のほうが優位なのではないかと考える。しかしながら「相互理解」という表現は少なかったものの、記述内容には幼保・小の連携の必要性や連携のあり方について具体的に記述されており、相互に同じ目標に向かって教育をしていきたいと考えていることが読み取れた。

アンケートの最後の設問として自由に記述された内容には、各教職員の思いや願いが込められていると考えられる。その記述内容を幼保等教職員と小学校教職員で比較しやすいようにカテゴリーに分類したところ、幼保等教職員のみ、小学校教職員のみ記述が見られたものと両方に見られたものがあった。例えば、幼保等教職員のみに見られたのは「幼小のギャップ」「自分の保育・考え」「知りたいこと」小学校教職員のみに見られたのは「幼児教育の重要性」「園による差」「時間の確保」「1年担任以外はよくわからない」であった。

※具体的に記述された内容（要約）については次ページ以降を参照

幼保 幼小連携の取り組み・在り方についての自由記述

教師間の情報交換の必要性

- ・情報交換が必要
- ・幼児教育の捉え方のちがいをすり合わせる事が大事
- ・就学後の幼児の様子を話し合える場が必要
- ・小学校でのその後の様子を知りたい
- ・幼小の職員の情報交換を年に何回も
- ・担任が決まってからの情報交換が大事
- ・情報交換の充実
- ・子ども一人一人の個性の情報交換をスムーズに
- ・情報交換の必要性(スムーズ移行)
- ・情報交換の必要性(安心感) ・情報交換の必要性
- ・情報交換の必要性(スムーズ移行) ・入学後の情報交換がほしい
- ・職員間の情報交換・連携が必要(体制づくりだけでは形式的)
- ・教師間の情報交換でそれぞれの誤解をなくしていきたい
- ・情報交換の必要性 ・職員間の情報交換の必要性
- ・職員間の情報交換を増やしてほしい
- ・小1プロブレムが生じないためにも、情報交換が必要
- ・要録より実際の会話がよい。職員間の情報交換の必要性
- ・教師間の交流の必要性(互いを知り、連携する)
- ・教師間の交流の必要性(予定が合わない)
- ・小学校へ入る直前ではなくもっと早めに情報交換
- ・教師間の情報交換(教育について) ・小学校の情報が不足
- ・新一年生の担任の先生と就学前の幼児の情報交換をきちんとしたい
- ・4月のはじめに、もう一度、新一年生担任と園の旧担任が話をする場面をもつといい
- ・入学してから困った子、困っている子の情報を保育所に知らせてほしい
- ・入学後の子どもの情報を聞き、保育の見直しに役立てたい

交流(連携)の必要性

- ・交流や体験は良い小学校生活のスタートになる
- ・入学前の不安を少なくする ・幼・保・小の交流の必要性
- ・職員同士の交流の機会を多く
- ・小学校との交流や意見交換の場が増えたと良い
- ・職員同士の交流をもっととると良い。
- ・小学校との交流(子ども達の)が増えれば良い
- ・連携により不安を解消
- ・職員交流が必要(色々な保育園があり、そんな色々な育ちを経て集まる小学校だからこそ)
- ・交流により子どもが小学校に対する理解が少しできる
- ・職員間の連携が一番大切
- ・連携の中で子どもの不安をなくし期待をもてるように
- ・小学生との交流が小学生になるという意識を高める
- ・交流を通して情報交換 ・交流は良い刺激になる
- ・交流の場を増やすと良い
- ・交流により喜びや期待が増え、成長につながれば良い
- ・交流によって、卒園児の成長が見られて良い(年下児にとって)
- ・集団活動の苦手な子が新しい環境に入りやすくなるため日頃連携を
- ・小学校の授業などを見学して就学に期待できるようにできたら
- ・連携・交流の必要性
- ・少子化になっているのでもっと交流があると良い。地域の活性化
- ・もう少し連携する必要あり
- ・幼小連携してスムーズに移行できるよう保育したい
- ・お互いの施設に行き来することで、慣れ、安心することができる
- ・スムーズな移行のため、幼小の連携や関わりを多くしていきたい

連携を密に

- ・連携を密に(5)・交流を密に
- ・連携を深めたい
- ・職員間の連携を深める(安心感へ)

連携のあり方

- ・幼小の子ども同士のかかわりや参加の機会を設けてほしい
- ・年長児期に小学校生活をイメージできるようにできると良い
- ・幼保との話し合いの必要性 ・子ども達がスムーズに移行できるように連携
- ・小学校はもっと幼・保と連携をとるべき
- ・期待に応えられるような交流をしてほしい
- ・一人一人の個性が良い方向へ伸びるような教育や交流
- ・先生とのかかわり(心と心の触れ合いの成長していくこと)を大切に交流
- ・地域で子どもをどう育てていくかが大事
- ・幼小の訪問(交流)で伝え合う ・一年を通して、小さな交流があればいい
- ・連携の内容を現場の幼小の教師で話し合うと良い
- ・避難訓練を幼小合同で行っている
- ・保育園と小学校の関係を密に ・年間を通して連携できたらよい
- ・情報を聞いた人は、しっかり伝えてほしい。
- ・一年生が幼、保に来て一緒に遊び、年長児が小学生になる期待が持てるようにできると良い
- ・年長児が安心して小学校で過ごせるように見学や一緒に遊ぶ機会はあると良い
- ・情報交換を定期的に行う ・連携しやすい情報交換に
- ・学校教育と幼児期の教育との違いを十分理解したうえで連携を図っていくことが大切
- ・幼小だけでなく地域を含めた連携ができていくと良い
- ・連携の方法がまちまちで画一化できないと思う ・職員間の意見交換の場をもつ
- ・教育活動の目指す方向についてやりとりしていく
- ・小学校の先生が園へ生活の様子を見に来てほしい
- ・子どもと交流と教員交流の2本の柱をしっかりと継続していく
- ・幼稚園の思いと小学校との思いが、とてもつながりにくい
- ・双方の思いをもっとつなげ、お互いが歩み寄れるようになるといい
- ・園と小学校が常に連絡しあえる関係が続いてほしい(連携から見ること課題など)
- ・交流行事の精選し必要なものを吟味する必要あり
- ・学校との連携のための会はありますが連続性がない。小学校からの連絡を持つだけでなく積極的に働きかけを
- ・誕生してから(いや誕生前から)の生い立ちがあつての6才であるということを念頭に連携して行くべき
- ・地域連携委員会で交流の場をもちたい
- ・小学校へ出向く機会が多いと連携しやすい ・小学生にとっても、意味のある活動となるよう進めていきたい
- ・小学校の先生が多忙のため幼小連携に力を入れてくれない・双方で取り組む必要がある

相互理解

- ・他校種の先生同士が話し合う機会をもつことの重要性
- ・幼小の相互理解が良い効果を生む
- ・相互理解の必要性
- ・幼児期の教育と小学校教育の相互理解がなくて連携はとれるのか
- ・相互に子どもの実際の姿を見る
- ・相互に効果的な連携・相互の情報交換
- ・幼小の相互理解(それぞれの教育や発達について)
- ・幼小の相互理解
- ・どのようなことに連携が必要か互いに考えることが大切
- ・互いに寄り添った連携の模索
- ・幼児期の教育内容と小学校の教育内容を相互理解
- ・幼小の生活の流れを職員が相互に知ると良い
- ・保育と教育の実際を相互理解することが大事
- ・相互理解の下連携が必要
- ・小学校の方も幼保での子どもの実際の姿を見てもらう機会を増やし共通理解できれば良い。

- ・入学すると小さい子扱い勉強面ばかりに目が向いている(保育園で育てたものを小学校でも受けて育てていってほしい) ・入学して赤ちゃん扱いほしくないでほしい
- ・一番年下として必要以上に幼く扱うのをやめてほしい
- ・入学して年下児になり、子どもがどう思うか心配
- ・必要以上に「1番下」扱い
- ・必要以上に手助けをされて、育ててきたことが生かされていない
- ・子どもを見る目に温度差あり。1年生を幼く見すぎ
- ・1年生になると「一番下」に逆戻り(高学年に給食のお世話してもらったり・・・)
- ・子ども達が培った力が小学校へ十分伝わらず、1から始まるといった感じを感じる
- ・リーダー的存在だったが1年生になると赤ちゃん扱い
- ・幼少期の教育を理解してほしい
- ・保育過程についての理解
- ・小学校の先生に教師指導の学習ばかりでなく、遊びや生活の中から学びがあることを知ってほしい
- ・小学校の先生に幼児教育を理解してほしい(遊んでいるだけではない)
- ・小学校側からも少し幼児教育について学んでほしい
- ・小学校へいくための準備ではない。交流で幼児の生活を理解してほしい
- ・保育所で培った力を発揮できるように関わってほしい
- ・子ども達1人1人の個性を認めながら伸ばし、自己肯定感を持ち自信が持てる子に育ててほしい
- ・幼稚園でついた自覚性、自主性が活かされない生活がある
- ・遊びを中心として学ぶ幼児期の発達を理解してほしい
- ・子ども自身の力を信じて見守る教育をしてもらいたい
- ・1年生に遊びの中から学べる活動を増やしてほしい
- ・保育園で身につけたことを伸ばし、保育園で身につけなかったことを成長させてほしい
- ・小学校の先生に幼児期の子どもの様子をもっと知ってもらいたい
- ・1年の担任の先生には園で培ったことをしっかり継続させてほしい
- ・子どもの意欲を引き出すような授業、一人一人を大切に授業をしてほしい
- ・就学に生かしてほしい主体的に取り組める授業形態の工夫をしてほしい。
- ・子ども達が興味関心のわく学校生活をつくってほしい
- ・遊びから育つ、子どもの発達への理解・1年生になると、幼い子扱いだが、もつとできる力を伸ばしてあげたらいい。 ・幼児が自信をもっていきいきと学んだり、過ごしたりできるように
- ・子ども達の期待に答える内容を工夫してほしい
- ・体験を授業の中でも活かしてほしい。
- ・学校でも沢山褒め、生きる活力をつけられるよう教育してほしい
- ・不思議体験、科学の芽など実体験を通して学べるようにしてほしい
- ・入学しても体験感動から学ぶ(授業)学習をしてほしい
- ・子ども主体となる授業や活動取り入れられればよい
- ・1年生になって細かい生活のルールを教えた上で授業をしてほしい
- ・幼稚園で経験したこと、学んだことが土台になってくるといってえ方で進めてほしい
- ・教科ごとの勉強だけでなく友達同士のかかわりの時間なども充実できるようにしてほしい
- ・小学校でも生活の中でのばした学習への力や取り組み方が必要
- ・入学前の情報交換の内容をいかしてほしい
- ・保育園時期にできた事が後退しないよう注意してほしい
- ・小学校へ行く給食指導が退行していく
- ・幼稚園や保育園は小学校の予備校ではない
- ・園で心がけていたこと、経験などに少し視線を向けてできることはつなげていってほしい
- ・幼児期の学びを小学校で十分いかしてほしい
- ・その子のもつ特質的なところを受け止めてほしい
- ・学習面だけでなく心の問題にも目を向けてほしい
- ・教育面ばかりではなく、情緒面も気にかけてほしい
- ・毎日の食事に対する対応のあり方 ・学習についていけない場合の子どもたちへの対応
- ・一人一人の良い所を伸ばしてあげてほしい
- ・一人ひとりに寄り添って指導を願う
- ・一人ひとりの気持ち、心の理解。そのらしさを伸ばすこと。ありのままを受け入れることを期待
- ・一人一人を理解してほしい
- ・少人数での一人ひとりの力を伸ばすような教育
- ・1年生にはもう少しいいねいであたたい対応をしてほしい(登校しぶりに)
- ・子どもの個性を大切に、伸々と学校生活が進めるようにしてほしい
- ・いじめなどの早期発見
- ・入学する喜びと不安を理解し、やさしく受け止めてほしい
- ・入学前の子どもを見に来て、一人一人を理解してほしい
- ・小学校の先生は幼児期の姿を知ってほしい
- ・小学校の先生に遊びから学んでいる様子を見てほしい
- ・就学前は特に子ども達の様子を見に来てほしい
- ・小学校教諭に保育所での生活や活動をもっと見てほしい ・小学校の先生に保育を参観してほしい

「一番下扱い」はやめて

幼児教育を理解して

幼児の発達を理解して

学習内容に工夫を

これまで培ったものを活かして

一人一人を理解して

園に見に来てほしい

カリキュラム

- ・現状の子ども達にとっては、カリキュラムをもう少しゆっくりペースにした方がよい
- ・お互いの現状、子ども達の様子を話し合う時間を設け、何が大切なのかどう進めばよいのかカリキュラムを組む上で検討会があるとよい(カリキュラム検討会)
- ・相互の情報共有(教育方針・授業内容など)
- ・小学校には保育園でのカリキュラムをつなげていく動きが見られるとよい
- ・カリキュラムのズレが大きい(低学年期は幼児期の延長という考えが必要)
- ・1年生の4月のカリキュラムを見てみたい
- ・カリキュラムについての情報交換の必要性
- ・カリキュラムに頼っていることが多い、少しは工夫したり、伸々とさせてあげることも大切!!

保育要録

- ・保育所児童要録をみて、一人ひとりの特性や配慮事項を理解してほしい。
- ・保育要録に目を通してきているのか
- ・保育要録の活用
- ・保育要録の活用
- ・保育要録の活用
- ・保育要録の活用
- ・児童要録の必要性に疑問(それぞれの負担が)
- ・保育要録を熟読し、わからないことを聞いてほしい
- ・保育要録を活用しているのか?
- ・保育要録は活用されているのか?

幼小のギャップ・幼保のギャップ

- ・小学校はもっと幼児教育的環境構成でスタートすべき
- ・幼稚園や保育所において行われている保育は更に多様(要領や指針を逸脱しているものまである)
- ・幼保小で子どものあるべき発達について共通理解が必要
- ・個々を大切にしたい保育と一斉授業のギャップ
- ・小学校は連携を必要と思っていないのでは
- ・年長児と1年生のギャップ(1年生はもっとできる)
- ・学校との距離は近くなったが、子どもに対する感覚の違いを感じる
- ・したい遊びを見つけて生活する幼稚園と小学校との生活にギャップ
- ・小学校によって連携に対する意識・考え方が違う
- ・入学すると遊びの形態が変わり不自然
- ・入学までに育てたい子どもの姿に幼小のズレがある。

入学後の様子・参観(研修)する機会が必要

- ・入学後の成長をみる機会をもちたい
- ・小学校の様子を知る機会が少ない
- ・小学校の様子を見られる機会があると良い
- ・小学校のことを知らない
- ・卒園児の小学校、中学校での様子など、情報が得られる機会があるとよい
- ・保育士や幼稚園教諭も小学校の実習が必要では
- ・小学校での姿を見る機会がない
- ・入学後の子ども様子を知る機会が少ない
- ・入学後の子どもの様子がわからない
- ・入学後の様子を知りたい
- ・入学後の子ども様子を知りたい
- ・入学後の子ども様子を知りたい(保育を見直すため)
- ・小学校の授業の様子を見てみたい(卒園児は楽しいと)
- ・先生の体験保育、体験学習では、学べることが多い
- ・実際の小学校の様子や小学校の先生が求めるラインをもっと知りたい
- ・入学後の子ども様子を知りたい
- ・年長児担任の小学校参観の必要性(支援の視点を考えるために)
- ・皆がしっかりと勉強や遊びができる環境にあるか?トラブルがあった時の対応はスムーズにできているか知りたい
- ・卒園後の学校生活を参観する機会があればいい
- ・教師同士の交流、授業見学など機会があるとよい

自分の保育・考え

- ・小学校の準備という考えではなく年長児の力をつけていきたい
- ・幼児期における保育士の愛情のかけ方、接し方、働きかけなどが小学校での姿にとっても影響が大きい(責任の重さ)
- ・幼児期において年齢に応じてしっかりと段階をおい、成長していくよう接し、援助、環境を整えることで、小学校という場が変わっても、子どもたちは適応できると思う
- ・幼児期に生活習慣や友達とのかかわりを身につけていければよい
- ・保育園での成長が小学校で活かされるとよい
- ・幼保小の連携をしっかりと取り合っている
- ・幼児期の教育と小学校教育は別である。幼児期の集団生活の中で友だちとのかかわりや人の話を聞く態度、自分のことは自分でする事、自分の思いを言葉で伝えるなど育つことが学校生活に繋がっていくと思う
- ・年長の2学期から保育士の気持ちを変える必要がある
- ・小学校と隣接しているので連携がとれている
- ・就学に向け年長児には必要な遊び(活動)を提供してあげることも保育士の役割
- ・多数の幼稚園、保育園では一人ひとりの発達や学びを保障するより、一斉に何かをさせることに教育の文言を使っているのが残念
- ・県教委・市教委の強い指導力で子ども達がスムーズに移行でき、お互いの校種の違いを学びあい、自分たちの今までを見直していく上でも大切なことではと思う

特別支援(配慮)が必要な幼児への対応

- ・配慮の必要な子の情報交換をしっかりと
- ・配慮の必要な子の情報交換を早めに
- ・情報が新年度の担任に伝わっていない
- ・配慮の必要な子の情報交換で安心感を感じられる子について相談してほしい
- ・配慮の必要な子の情報交換を密に(悪化しないように)
- ・情報交換の必要性はあるが先入観の排除も必要
- ・就学前にあった問題行動や家庭環境などの共有が大事
- ・個別に配慮が必要な子どもへの配慮の仕方(一人一人に対応して)
- ・発達が気になる子の保護者との情報交換や連携を
- ・子どもの様子を決めつけて伝えないよう注意したい
- ・家庭環境はくわしく知っているので気軽に相談してほしい。
- ・園での様子を話すことで、対応の配慮もなされていると思う

知りたいこと

- ・小1プロブレムが生じる理由を知りたい
- ・小学校との連携について知りたい
- ・入学までに何を身につけておけばよいかを知りたい
- ・入学までに身につけてほしいことは何か
- ・小学校の教育方針やめざしていることを知りたい
- ・小学校教諭の考えを知りたい
- ・幼児期での就学前にしてほしいことなどをわかりやすく教えてほしい
- ・連携の取り組みについて知りたい
- ・入学までに身につけてほしいことは何か
- ・入学後の子どもの困り感は何か
- ・小学校は幼稚園の取り組みを知っているのか
- ・何をしたらスムーズに学校生活が送れるのかを、詳しく教えてもらいたい
- ・保育所からの資料の活用の実際を知りたい
- ・小学校でどんなことをしているのか知りたい
- ・英語に親しむことは必要なのか、幼児期にとつてどういう形でふれることが大切なのかを知りたい
- ・幼小連携について理解を深めたい
- ・小学校側がどこまで保育所・幼稚園の学習への取り組みの仕方を理解しているのか
- ・小学校の先生が幼児期に望むことは何か知りたい
- ・小学校へ入学するまでにできてほしいことは何か

その他

- ・市内の小学校との連携は各々で、密度の濃さの違いを感じる
- ・特定の保育園のみとのかかわりはやめてほしい
- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭と言っても、個人によって違う
- ・連携にしばられすぎ
- ・1年生の教室に視覚的な支援が多くなった
- ・小学校の連携の意識が高まっている
- ・マイ保育園のように、マイ小学校制度があればいい
- ・小学校の先生が就学を控えた子ども達の中に入って一人一人と触れ合い、保育士と話し、子どもの受け入れに配慮してくれている
- ・小学校でいろいろな工夫をされ、45分座って勉強できているので安心している
- ・小学校はグレーゾーンの中に入る子どもの支援を積極的に行っている
- ・ITの発達は子どもの生き辛さを生んでいないか
- ・幼児期の教育の中に幼稚園も保育所も含んだ意味合いと捉えたと幼小の連携ということで納得
- ・食事時間が短すぎる

保護者(親育て)

- ・子どもより親への対応が気になる
- ・保護者に保育所や学校でのことを理解してもらおう働きかけが必要
- ・保育園は働く親を支援する機関(家庭への忠告助言が母親への負担になることを危惧して言えない実態があることを理解してほしい)
- ・保護者に子育ての共通理解が伝えられない難しさを感じる
- ・小学校と連携してもっと親育てをしなければならぬ

小 幼小連携の取り組み・在り方についての自由記述

教師間の情報交換の必要性

- ・情報を共有して、教育することが大切
- ・幼保小の地域情報交換ができると良い
- ・情報交換の体制作りが必要
- ・教員同士の情報交換の必要性
- ・情報交換を密に
- ・教師間の情報交換
- ・教師間の情報交換
- ・情報交換を密に
- ・教職員同士の情報交換
- ・情報交換の必要性
- ・子どもの情報交換の必要性
- ・教師間の情報交換
- ・風通しの良い情報交換に期待
- ・幼児期の情報を密に
- ・情報交換を密に

連携のありかた

- ・必要ときに情報交換をしたい
- ・地域の実態に合わせて連携のあり方を考えるのがよい
- ・幼小で同じめあてをもつ
- ・スムーズに小学校生活が送れるように連携
- ・大事なことを共通理解
- ・社会で生活することを連携
- ・小さな取り組みから
- ・相互に負担のない連携
- ・幼小連携で社会性養う
- ・何を連携するかを明確に
- ・6年生が手を貸しすぎずではと気づいた
- ・子どもたちの成長を考えて（一番に）連携というものについて、中身も考えてほしい
- ・肯定感の高まる事、人の役に立ち感謝される経験、人に親切にする事などを大切に連携
- ・個を大切にしながら、ルールやマナーを守る大切さを連携して教えていく必要がある
- ・何が身につけていて、何が初めての経験かをよく知り生かすことが大事
- ・幼小をつなぐ取り組みを増やす
- ・幼児期の教育を生かせるように連携
- ・スムーズに自立の力を育みたい
- ・つながった育ちを支える場や考え方が必要
- ・異年齢交流の幅が広がる
- ・子どもが楽しく生活できるような教育をめざした連携
- ・子どもが戸惑うことがよりなくなる幼小連携

相互理解

- ・相互の理解
- ・幼小の相互理解
- ・幼小の教育内容の相互理解
- ・職員の相互理解
- ・相互の情報交換（申し送り）

交流（連携）の必要性

- ・年長と1年の担任の交流（児童理解）の必要性
- ・連携が進みスムーズに慣れるように
- ・交流の中で見えた姿の幼小の情報交換
- ・幼保小連携がスムーズに
- ・連携は大切
- ・幼保小の連携の大切さ
- ・幼小連携の必要性（小1プロブレム解消）
- ・職員間の交流の必要性
- ・交流で入学時の段差を小さく
- ・日常的な交流
- ・教師間の交流の必要性
- ・幼小連携は安心して過ごすために大切
- ・幼小連携の必要性
- ・幼保小の連携の必要性
- ・幼小の連携の必要性（スムーズな入学）
- ・連携の必要性
- ・小学生と幼児の交流があるとよい
- ・幼小連携を深めていくことに期待
- ・連携による相乗効果に期待

連携を密に

連携を密に(2)

特別支援が必要な幼児への対応

- ・気になる子の引継ぎをしっかりと
- ・個のおかれている環境を把握（情報交換）
- ・支援が必要な子どもの実態や有効な手立てを知りたい
- ・幼児期からの発達障がいに対しての支援が必要
- ・個別の支援を要する児童の増加
- ・配慮を要する子などの情報交換
- ・担任が一人一人に対する配慮の仕方がわかるとよい

保護者（親育て）

- ・子どもが家庭の中で愛され安心して生活ができることが大切
- ・親育て（子どもと遊び話を聞くなど愛情をかけてほしい）
- ・保護者対応が大切
- ・親育て（価値の育成・心の育成）が必要
- ・親育ての役割
- ・親育て（マナーや態度など）
- ・保護者への関わりを指導してほしい
- ・幼児期の親が何を思っているのを知りたい。幼保でのサービスを小学校ではできない
- ・家庭との連携
- ・幼児期の大切さを保護者へ啓蒙
- ・家庭との連携
- ・保護者の意識
- ・家庭の教育力の向上、親育ての必要性
- ・保護者の問題、教育はサービス業ではない
- ・保護者への教育
- ・親育ての必要性
- ・保護者対応を考えた教育
- ・保護者への理解を促す（幼保小のギャップが大きい）
- ・保護者の家庭教育
- ・保護者の教育の必要性
- ・子どもの変化は親の変化
- ・年々、1年生の抱える問題が深刻化しています。家庭の問題がほとんどの原因、積極的にかわる必要性あり
- ・保護者、家庭との共通理解が難しいと感じることが、多くなってきた

幼児教育への要望・思い

- ・早期教育はやめてほしい
- ・幼で小の先取りをしないでほしい
- ・先取り教育より身辺自立を
- ・早期教育は良くない
- ・先取り学習は良くない
- ・先取り教育はやめて
- ・早期での学習はしないでほしい。
- ・早期教育（勉強より）五感を使った遊びの充実
- ・学習がスムーズに身につくための、前段階としての教育が良いのではないかと（行きすぎも良くない）
- ・小学校の先取りではなく、幼児期にしかできないことを体験・集団の中で活動できていること
- ・いろんな経験をして、前向きに意欲がもてる心を育ててほしい。入学前の「漢字・ひらがな」の指導は小1の学習の妨げ
- ・時間のけじめをつけること
- ・幼児期には善悪の判断、たくさんの経験をさせて子どもに考えさせる働きかけ
- ・たくさんの経験をさせ、たくさんの言葉かけをしてほしい
- ・公の場面でしていけないことをきちんと教える
- ・集団での学習規律
- ・集団として活動することができる基礎づくりができているとよい
- ・経験が小学校の学習を充実させる
- ・集団生活のルールを身につけること
- ・集団としてのマナーの指導をこれからも続けてほしい
- ・集団生活・ルール
- ・基本的な生活のルールを守れるように
- ・人が集まって勉強する意義は何か考えてほしい
- ・集団としてのルールが大切なことも理解してほしい。
- ・みんなですることの楽しさ、そのためにがまんすることもわかってほしい。小学校生活の先取りより、その時期にしかできないことを充実してほしい
- ・話を聞こうとしない、指示が通らない児童にならないよう幼児期の教育でくいとめられないか
- ・嫌いなもの苦手なことにもがんばれるようにする
- ・入学時までには身につけてほしいことはあるが、幼児期ののびのびした姿も大切にしたい。園児がこんな学校に行きたいなど思える学校をめざしたい
- ・小学生が園児にとって憧れの存在に
- ・豊かな体験
- ・幅広く様々な体験を積んでほしい
- ・自然、人間関係に触れる体験を多くしてほしい
- ・学習や活動の基礎となる力をたくさんの遊びを通して育ててほしい
- ・幼児期の子どもにはいろいろな経験と体験をさせてほしい
- ・幼保では学びの土台となるところをしっかりと育ててほしい
- ・いろいろな本（お話）にふれたり体力や根気を育ててほしい
- ・遊びを通して
- ・幼児期は遊びを通して学んでほしい。
- ・「みんなでもやると楽しい、色んなことができる」という体験を幼稚園のうちに
- ・いろいろな友だちと仲よく遊んだり、いろいろな活動ができる
- ・幼児期に、一律に学習などを徹底するのは難しい
- ・幼児期の学習や行動の仕方が小学校でもそのまま生かせる指導を
- ・のびのび好奇心をもって学べる意欲を育てたらよい
- ・幼児期で培った力を小学校でなくさないようにしたい
- ・集中力、我慢強さは身につけてきてほしい
- ・けんかをして自分達で解決できるスキルを身につけて来てほしい
- ・自分の思いを表現できる子
- ・本当に困っていることやできないことを伝えてほしい
- ・自分の思いをはっきり伝えられることが大切
- ・思いを表現して
- ・姿勢や粘り強さ、他とのかわり方を十分に幼児期で身につけてほしい
- ・小学校のきまった枠におしこめることは良くない
- ・子どもたちが（親御さんも）安心して入学できるように
- ・思いやりの心を身につけてほしい
- ・デンマークやフィンランド等北欧の幼児教育を参考にしてほしい
- ・がまんする力、自分の気持ちを言葉で伝えようとする姿勢を育ててほしい
- ・ハサミの持ち方、のりのつけ方、洋服のたたみ方など生活の基本的なことが小学校で生かされる
- ・生活リズムの指導
- ・生活力をつけてほしい
- ・生活習慣
- ・自分のことは自分でできるように

幼児教育の重要性

- ・幼児期の教育は、かつての保育的な役割から、子どもを育てる大切な時期の重要な場
- ・幼児期には幼児期の発達を促すふさわしい教育があると思う
- ・幼児期の教育は人格形成の基盤となる
- ・幼稚園での遊びが小学校での思考力につながっていく
- ・学習の基礎基本となる

カリキュラム

- ・スムーズな移行をするための方策が必要(小の生活リズム)
- ・カリキュラムは入学前に確定しているが担任裁量で工夫
- ・保育園や幼稚園のカリキュラム等に差
- ・それぞれの園での特色を活かした保育課程を上手に生かしたい
- ・幼保のカリキュラムをそろえていくのか
- ・スタートカリキュラム作成すべき
- ・スタートカリキュラムでスムーズな移行
- ・幼児期に身に付けた力を生かした、小学校のスタートカリキュラム編成
- ・スタートカリキュラムの必要性
- ・小学校入学後の2~3週間のスタートプログラムを幼保小が合同で作成する方法あり
- ・生活科(小)のカリキュラム編成から
- ・実態を見てからのカリキュラム編成はなかなか難しい
- ・幼児期のカリキュラムを知りたい
- ・もう少しゆったりとした1年生時代を過ごさせてあげたいが限られた時間内の教育課程がある
- ・1年生の実態に応じたカリキュラム編成があると良い

保育要録

- ・保育要録を見てもその子の特性が分からない

幼児教育への関心・参観(研修)する機会が必要

- ・幼児期にどのような教育がなされているか
- ・先進校の取り組みの紹介または公開研などがあつたら見てみたい
- ・就学前に身につく力は、とても大きいので幼小連携を学んで生きたいとできないことを知ることが必要
- ・幼保の生活を見る機会が必要
- ・職員間の交流、幼小の職員の参観
- ・小学校の先生も幼児教育に関心をもつべき
- ・保育参観が幼児の指導に役立つ言葉かけや子ども理解のあり方、一日の流れなどを知りたい
- ・幼児期で大事にしていること、身につけたことを知ること
- ・職員の日保育参観で実態を把握できた
- ・幼稚園教諭や保育士の行事の参加で児童が喜ぶ
- ・幼児期にどんな活動をしているかを知ることと良い連携を
- ・小学校教員の研修が必要
- ・附属幼稚園の幼児教育に学びたい
(自分で考え解決する力を育てる)
- ・参観の機会の必要性
- ・幼児期の教育を知りたい
- ・連携を具体的に知りたい
- ・幼稚園での取り組みの具体を知る機会がほしい
- ・幼児期の教育について勉強が必要
- ・以前幼稚園教育を勉強する機会があつて、子どもたちを見とることの大切さを知った

園による差

- ・幼保所によって教育がばらばら
- ・各保・幼・所の差
- ・各保・幼・所の差
- ・各保・幼・所の差(方針など)
- ・幼児期の教育を統一するのは難しい(幼・保・所)
- ・幼稚園でばらばら、それぞれの実態にあわせることは困難
- ・幼稚園ごとの違い
- ・各幼稚園の学びの様子を知る必要
- ・幼保のばらつきをまとめるのが困難
- ・幼保の方針のちがいの理解が必要
- ・幼保同士の連携はとれているのか
- ・幼保がばらばらでは確かな情報は得にくい
- ・幼保の方針のちがいのため、生かし切れない
- ・幼保のちがいが大きすぎ

時間の確保

- ・連携したい気持ちはあるが、日々の業務に追われ、時間的余裕がない
- ・時間や場の設定方法がわからない
- ・小学校は時間の制約があり戸惑いがあるだろう
- ・連携の時間確保が難しい
- ・時間の確保ができれば
- ・小学校の多忙化の問題
- ・情報交換の場の設定やその時間の確保

1年担任以外はよくわからない

- ・1年生に関わっていないため、わからない
- ・低学年の担任でないとよく理解していない現実
- ・低学年を経験しないとわからない
- ・1年担任をしないとわからない
- ・1年担任以外の教員が幼児期に関心をもつことが大事
- ・低学年をもっていないので、幼児期からの連携に携わることがこの頃ない

その他

- ・学校生活を考慮した工夫に感謝(椅子に座る時間・昼寝をなくすなど)
- ・幼保の最後のあたりに小学校のような形を経験しては?
- ・幼児教育の充実、発展に期待
- ・幼保と連携するのがよいことだが家庭や地域による個人差
- ・隣接していると連携しやすい
- ・アンケートを十分に活用してほしい
- ・徐々にいすに座って学習できるよう配慮
- ・年長での昼寝の意義は
- ・連携している
- ・幼児期の教育を想像できない
- ・幼児教育(図工面)では体験があるのとないのとでは大きく違う
- ・幼稚園、保育園に私立が多いのはなぜ?
- ・アンケートの項目が多すぎ
- ・幼稚園や保育園でとてもきちんと指導されてきている。
- ・自分のことだけでなく全体をみて行動できる子がいて感心している
- ・十分な就学前教育を受けている子どもたちと日々接している皆さんには、オサルのような子どもたちを見ている私たちの考えが参考になるのでしょうか
- ・幼小と別の教育として考えるのではなく、つながりがあることは今後とも意識していきたい
- ・1年生での集団活動のスタートが全員そろっての0からのものではないので、その差が幼児期に幼稚園等で学校生活で不都合にならない程度に解消されるとよい
- ・小1にももっとまかせ、やらせる。信じること…担任がどンドン子どもの力を出させること。これが必要。そのために幼保への体験を初任や若手、ベテランにもさせるべき。ただし、幼保が小学校予備校になってはいけない。